

俳句

1年目 ステップ5



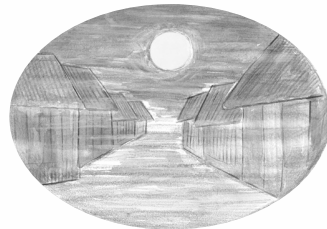
おんせい
音声はこちら

ひとぬ 一つ脱いで うしろお 後に負いぬ ころも 衣がえ



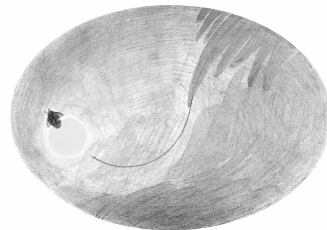
まつお ばしょう
松尾芭蕉

いちなか 市中は もののにおいや なつつき 夏の月



のざわ ほんちょう
野沢凡兆

くさは 草の葉を お 落つるより と 飛ぶ ほたる 蛍かな



まつお ばしょう
松尾芭蕉

どんてん 曇天や まむしい 蝮生き居る びんなか 壺の中



あくたがわりゅうの すけ
芥川龍之介



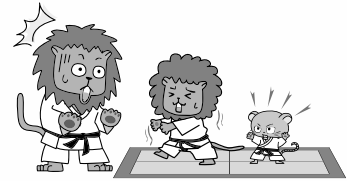
おんせい
音声はこちら

慣用句

1年目 ステップ5

かお どろ
顔に泥をぬる

ひと めい よ きず はじ
人の名誉を傷つけたり恥をかかせること。



あたま かか
頭を抱える

どうしたらよいのかわからなくて困っている様子。



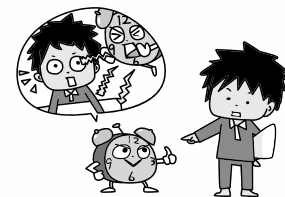
こし ひく
腰が低い

た にん たい たい ど せつ よう す
他人に対してへりくだった態度で接する様子。



ねん お
念を押す

まちがいがないように相手に十分に確かめる。



たか
高をくくる

たいしたことはないだろうと見くびる。





《体言と用言》

体言は 主語となる 名詞 代名詞 この二つ
 用言は 述語となる 動詞 形容詞 形容動詞

動詞は 動作を表す うごきの言葉
 形容詞 形容動詞は 性質や状態を表すね

用言は 単語の形が 変化する

その形を 活用形

未然(形) 連用(形) 終止(形)

連体(形) 仮定(形) 命令(形)

の六つです

行かない 行きます 行く 行く時 行けば 行け

飛ばない 飛ばします 飛ぶ 飛ぶ時 飛ばば 飛べ

体言
は

主語になる
 人やものを表す言葉
 が多いね

用言
は

述語になる
 下に続く言葉で、
 単語の形がかわるね

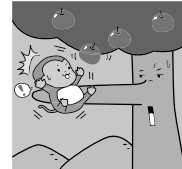


おんせい
音声はこちら

ことわざ

1年目 ステップ5

さる き お
猿も木から落ちる
その道^{みち}の達人^{たつじん}でも失敗^{しっぱい}することもあるということ。



ごう い ごう したが
郷に入^いっては郷^{ごう}に従^{したが}え
新^{あた}しい環^{かん}境^{きやう}に移^{うつ}ったらそこの風^{ふう}習^{しゅう}に従^{したが}うのが良^よい
ということ。



ひやくぶん いっけん
百聞は一見^{いっけん}にしかず
人^{ひと}の話^{はなし}を何^{なん}度^ども聞^きくよりも、一^{いち}度^ど自^じ分^{ぶん}の目^めで確^{たし}か
め^めた方^{ほう}が良^よいということ。



で くい う
出^でる杭^{くい}は打^うたれる
でし^{もの}やばる者^{もの}や頭^{とう}角^{かく}を現^{あらわ}す優^{ゆう}秀^{しゅう}な者^{もの}は、他^{ほか}から妨^{さまた}
げられ^めたりするということ。



だい しょう か
大^{だい}は小^{しょう}を兼^かねる
大^{おお}きいもの^{もの}は小^{ちい}さいもの^{もの}の代^かわり^{わり}に使^{つか}うこと^{こと}もで
き^きるということ。



おび みじか たすき なが
帯^{おび}に短^{みじか}し襷^{たすき}に長^{なが}し
中^{ちゅう}途^と半^{はん}端^ぱでどち^{やく}らの役^{やく}にもた^たたないこと^{こと}のた^たとえ。



百人一首

1年目 ステップ5



おんせい
音声はこちら

これやこの
行くも帰るも
知るも知らぬも
別れては
あふ坂の関
(蟬丸)

花の色は
うつりにけりな
わが身世にふる
いたづらに
ながめせし
間
(小野小町)

